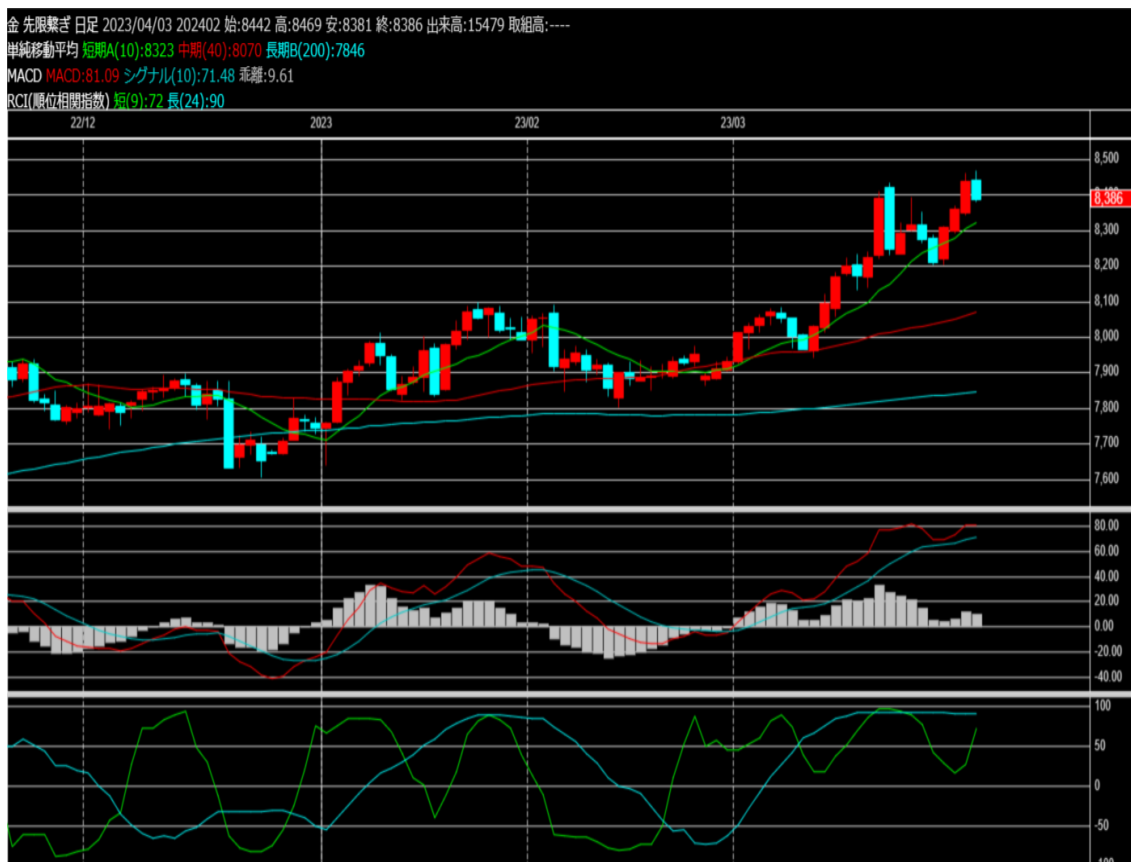


<金標準先物、持続性が消え目先の調整安に注意・・・>



(出所：オアシス)

シリコンバレー銀行はファースト・シチズンズ・バンクシェアーズが買収、シグネチャー・バンクをフラッグスター・バンクが買収し、株価が大きく反落したファースト・リパブリック・バンクにはバランスシート修復の時間を与える緊急融資ファシリティー拡張を検討するなど、金融市場を襲った信用リスクは後退を見せている。ただ金融市場を襲った信用リスクは、FRBの利上げ打ち止め感の憶測を高め、金利を生まない金にとって債券が買われ、金利が低下する環境は金に対する投資妙味を逆に増している。

また一連の金融不安を受け日米欧の中央銀行の金融政策の違いが浮き彫りとなり、FRBは利上げ打ち止め感が強まり、ECBは利上げ継続が示唆されている。特に日銀は植田次期日銀総裁が金融緩和策の継続を示唆するなど、為替市場では円キャリートレードを使い、ユーロ買い・ドル売りの構図が強まるなど、信用リスクが後退しても金標準先物は8469円まで高値を試している。ただテクニカルはピークに近く目先は調整安に注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDの上昇が止まり、シグナルは上昇するなど乖離が縮小している。RCIでは短期が上昇し、長期は維持するなど強気を維持する中で目先の調整安には注意が必要と思え、40日移動平均線との乖離が拡大した状況であり、10日移動平均線が位置する8323円に向けた調整安に注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 4 月 3 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 39,160 円(2023 年 4 月 3 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>